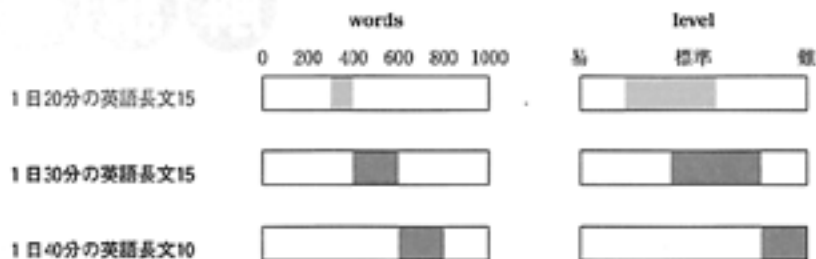


はじめに

大学入試問題では長文読解問題が大きな割合を占め、その出来が合否を大きく左右します。しかし長文といっても複数の文が集まったものですから、一文一文の構造を正確に捉え、その内容が理解できれば長文全体の内容も理解できます。この観点から、長さや難易度を基準に4冊の長文問題集「やっておきたい英語長文」にまとめました。これらは2004年12月に刊行して以来、2008年11月までにトータル18万部以上発行し、多くの受験生の評価を得ていますが、一方、もっと英文を読みたい、制限時間内でいかに英文を読んだらいいのか、という声も私たちのもとに数多く届いていました。

みなさんも経験からわかっているでしょうが、「30分なら読めるのに」、「40分あれば全問解答できるはずだ」、ということがよくあるはずですが、しかし入試においては限られた時間内にきちんと合格答案を仕上げなければなりません。そこで、私たちは今回、より解答時間を意識した問題集を作ることになりました。実際に出題された入試問題から近年の傾向を踏まえた上で、良質の英文を選び、3冊の問題集にまとめました。英文の分野も多様なものをセレクトし、設問も内容面から、また英語の理解という観点から問うべきポイントに焦点を当て、ほぼ全面的に作り変えてあります。

本書は好評を博した「やっておきたい英語長文」の姉妹書として作成しています。そのため設問解説、語句解説などの表記等を踏襲していますが、さらに詳しい解説がほしいという要望に応え **ココにも注意!** では設問にはなっていないものの、ぜひ押さえておきたいポイントを取り上げました。文法ポイントあるいは論旨の展開上重要な点について解説しています。また、**この単語に着目** では知っておくと武器になる、使える単語を取り上げています。英語学習の重要課題である語力増強に役立つよう、また確実に覚えられるよう工夫しました。単語集を丸暗記するのではなく、覚えやすく忘れにくいコツが盛り込まれています。



「1日20分の英語長文15」は、300語から400語程度のやや易から標準レベルの英文15題で構成されています。センターレベルの英文を読みこなせるようになることが目標です。設問解説では解答への道筋を詳しく示すよう心がけました。また、構文・語句解説では基本的であると思われるものまで取り上げています。「1日20分の英語長文15」で基本的な読解力がついた人は、さらなる読解力養成のために「1日30分の英語長文15」に挑戦してみてください。

本書が志望校合格を目指して努力しているみなさんの学習の一助になれば幸いです。さあ、問題1にトライしてみましょう。

著者記す

解答

問1 この孤立感のせいで私たちは、こちらに向けられるかもしれない批判を、人との接触を避けることによってかわしたいという気持ちになる。

問2 他人に好印象を与えたいという欲望。(17字)

問3 ・自分が他人にどう見えるかということ。(18字)
・自分がどんな印象を与えたのかということ。(20字)

問4 ウ

問5 エ

設問解説

問1 無生物主語の文。This feeling of isolation「この孤立感」が主語、makes が使役動詞で、目的語 us の後ろに動詞の原形 want が続く。ここまでの直訳は「この孤立感が私たちに…することを欲するようにさせる」となるが、主語の部分で副詞的に訳すことで「この孤立感のせいで私たちは…したい気持ちになる」という自然な訳にできる。to に続く部分では shrink from A「Aからしりごみする」、possible criticism「ありうる批判」(「可能な批判」では意味不明となる)、by avoiding people「人を避けることによって」を正しく理解することが大切。なお、by avoiding people は shrink を修飾する前置詞句。

□ isolation「孤立、孤独」 □ possible「(ひょっとすると)ありうる、可能性のある」

問2 this urge は「この欲望」という意味。直前の文の want to do「…することを欲する」の表現に着目し、直前の文をまとめる。

□ urge「駆り立てられる欲望、衝動」

問3 下線部を含む文は「もっとも幸せな人とはそのどちらもまったく気にしない無頓着な人物である」という意味。never ... either で「2つとも…ない」という意味で、2者について言及する時に用いる。直前の第3段落に人がもっとも頻繁に問いたがる質問として 'How do I look?' と 'What impression did I make?' という2つの質問がある。これは第2段落で述べられている、他人が気づくことすらなのに私たちが気にかける些細なことの具体的な内容と考えられる。したがって「もっとも幸せな人」が気にしない2つのことが、この質問部分であると考えて、either に当てはめると文意も通るので、この内容を答え

1前者の場合には、あなたは真の友人を得るだろうし、不寛容で独断的にならないようにする良識を備えていれば、対立する相手でさえあなたに敬意を払うだろう。そのうちにあなたを気に入るようになるかもしれない。

2後者の場合には、あなたは典型的な「いいやつ」になり、数多くの知り合いはいるけれど、真の友人は一人もないことになるだろう。3人はあなたと一緒にいるにはいい仲間だとみなすかもしれないが、全幅の信頼を置いてはくれないだろう。

1 In the first case とは第6段落の「自分自身の理想と意見とを持ったしっかりした人物として知られたい」場合を指す。

- common sense 「良識、常識」 intolerant 「不寛容な」 dogmatic 「独断的な」
 opponent 「対抗者、敵」 respect 「を尊敬する」 in time 「そのうちに」

2 In the second case とは第6段落の「皆を楽しませようとする、したがって八方美人だという印象を与える人として知られたい」場合を指す。with many ... real friends は a typical 'good fellow' を説明する前置詞句。

- typical 「典型的な」 fellow 「やつ、仲間」 acquaintance 「知り合い」

3 regard A as B 「AをBとみなす」 company 「仲間」 complete 「完全な」

この単語に着目 company

日本語で「カンパニー」と言えば「会社」の意味しかないが、英語の company には「会社」の他、「仲間、同席すること」などの意味がある。

例1 That company celebrates its 50th anniversary.

「あの会社は創立50周年を祝っている」

例2 Children should avoid bad company.

「子供は悪い仲間を避けるべきだ」

例3 We enjoyed her company very much.

「彼女と一緒にいてとても楽しかった」

そうした意味から、keep company 「付き合う」や be in good company 「仲間はたくさんいる」などの表現が出てくる。

例4 Don't keep company with lazy people.

「怠け者とは付き合うな」

例5 You got a bad grade on that math test? Well, you are in good company.

「あの数学のテストの点が悪かったって？ 君だけじゃないよ」